

科目名 (英)	業界知識 (Entertainment industry Knowledge)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤晃彦
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 火曜1限
教員の略歴	1978年より音響やローディーなどの仕事に関わり、舞台監督としてREBECCA、THE BOOM、Char、中森明菜等のコンサートを制作する。						
授業の学習内容	コンサート現場での専門用語、しきたり、ルールなどを学び、即戦力として通用する知識を養う。						
到達目標	コンサート運営に必要な段取りを知り、タイムテーブル、舞台図面の内容を把握出来るようにする。						
評価方法と基準	定期試験 70%、授業内評価 30% 専門用語を使いこなせる						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	授業の概要と進行を解説する	授業及び実習に必要な準備物を確認する
2	/	演習	音楽業界で働く人の意識について学ぶ	事例・歴史を参考に日本の音楽業界の変遷について考える
3	/	演習	コンサートをつくるための様々な仕事を学ぶ	授業で学んだ職種を復習し、自分の興味のある仕事を見出す
4	/	演習	コンサートスタッフの一日を学ぶ	本番の現場をはじめ、準備段階での業務などを復習する
5	/	演習	コンサート会場の種類を学ぶ	授業で学んだ会場を復習し、身近にある開場を見つけてみる
6	/	演習	コンサート制作で作成される書類を学ぶ	参考書類を参考にテンプレートを作成する
7	/	演習	舞台平面図を理解する①	縮尺や用語を復習し、覚える
8	/	演習	舞台平面図を理解する②	バトンや幕の役割を覚える
9	/	演習	野外コンサートの平面図を学ぶ	仮説ステージの基本的なつくりを理解する
10	/	演習	タイムテーブルを理解する	タイムテーブルを参考に各業種の仕事の流れを復習する
11	/	演習	舞台平面図とタイムテーブルを関連づける	時間ごとにシーンが変わるという概念を理解し、転換の時間配分を考える
12	/	演習	タイムテーブルの作成を学ぶ	全数を参考に1日完結のイベントをシミュレーションしてみる
13	/	試験	筆記試験による理解度テスト	
14	/	演習	舞台機構実習を行う③野外フェス	タイムテーブル・平面図を理解し、転換の仕事体験する
15	/	演習	舞台機構実習を行う③野外フェス	タイムテーブル・平面図を理解し、転換の仕事体験する

16	/	演習	舞台機構実習を行う③野外フェス	タイムテーブル・平面図を理解し、転換の仕事を経験する
17	/	演習	イベント参加者のチョイスの基準を学ぶ①	アーティスト、料金、会場、演出、グッズなど実例を参考に復習する
18	/	演習	イベント参加者のチョイスの基準を学ぶ②	アーティスト、料金、会場、演出、グッズなど実例を参考に復習する
19	/	演習	イベント実施にあたっての準備を学ぶ	前週までを参考に集客の基本を考える
20	/	演習	イベント実施までの制作作業について学ぶ	演者、会場、プロモーションなど全ての要素について考える
21	/	演習	イベント運営時の作業について学ぶ	制作というセクションについて必要な要素を考える
22	/	演習	イベント企画について学ぶ①	企画書をゼロから作成し、様々な視点からシミュレーションする
23	/	演習	イベント企画について学ぶ②	企画書をゼロから作成し、様々な視点からシミュレーションする
24	/	演習	イベント企画について学ぶ③	企画書をゼロから作成し、様々な視点からシミュレーションする
25	/	演習	日常のトレーニングについて①	スキルを身に付けるための考え方と具体的な方法について考える
26	/	演習	日常のトレーニングについて②	スキルを身に付けるための考え方と具体的な方法について考える
27	/	試験	筆記試験による理解度テスト	
28	/	演習	舞台機構実習を行う①学校ホール	卒業進級展を運営し、1年間の総括を行う
29	/	演習	舞台機構実習を行う②ライブハウス	卒業進級展を運営し、2年間の総括を行う
30	/	演習	舞台機構実習を行う③ライブハウス	卒業進級展を運営し、3年間の総括を行う
準備学習 時間外学習			授業で学んだものを実習に活用できるように整理する	
【使用教科書・教材・参考書】 都度配布(コンサート制作資料)				

科目名 (英)	ビジネスマナー (Business Etiquette)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	千葉秀
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 火曜3限
教員の略歴	1989年より流行天国工房を設立し、プロデューサーとして音楽を中心としたTV番組制作やCD制作、コンサート制作のマネジメントを歴任						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽業界にとどまらず組織を円滑に運営するためマネジメントは重要でその基礎となる部分を体験していく</li> <li>グループ、組織での合同実習などの際に「見学」から一歩踏み込んで自分の場を作る事を目指し、疑問→考え→行動まで移す。</li> <li>リーダーとマネジメントの違いに気付いてもらい、相手の立場や個性も尊重し合いながらミッションを達成するという最大目標を投げ出さず、到達させたい。</li> <li>わからない。失敗する。を前提としなるべく多くの答えを導き体験させたい。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確め切りまでのアップ率強化。対外的な見せ方、メモ強化。即行動。返事のレスポンス。疑問を疑問のままでは終わらせないなどを注意深く、根気強く、わかりやすく、ループしながら教えていく。</li> </ul>						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義・演習	各自自己紹介と1年間の流れを説明する	授業及び実習に必要な準備物を確認する
2	／	講義・演習	グループワークでコミュニケーションの糸口を探る。	人前で発表する事を練習する
3	／	講義・演習	マネジメントとマネージャーについて学ぶ	これまで持っていた概念と本来の意味のギャップを埋める
4	／	講義・演習	合同授業(現場マネジメント)現場という空間の中で自分が準備しなければいけない事を学ぶ	行動に移さなければいけないことをシーンごとに確認する
5	／	講義・演習	合同授業(学園祭反省会)学園祭の計画内容と、実際の行動での気づきを発表する。	正しい自己評価ができてるか検証する
6	／	講義・演習	制作費(予算)の算出を学ぶ	事業計画をするにあたって必要な制作費の算出項目とその算出方法を身に付ける
7	／	講義・演習	現場マネジメント(スケジュール管理)ミュージカル実習を連動する	本番までのスケジュール管理をしていく、全体スケジュール表の制作とクラウドにアップする
8	／	講義・演習	多様化していくプロモーションアイテムについて学ぶ	媒体の種類・方法について調べてみる
9	／	講義・演習	WEBプロモーションの仕組みや印刷に関する基礎知識を学ぶ	媒体の種類・方法について調べてみる
10	／	講義・演習	現場マネジメント(情報管理)ミュージカル実習を連動する	計画通りに進んでいるか、新規情報があるかなどをチェックしクラウドアップ・共有する
11	／	講義・演習	現場マネジメント(プロモーション・運営計画)ミュージカル実習(決起集会)を連動する	伝えたいテーマ、目標、達成などをモシ、その意向を自分でも十分外部に発信できるようにする
12	／	講義・演習	現場マネジメント(制作計画)ミュージカル実習と連動する	現場で必要なデータを整理し、各セッションとのコミュニケーションの中心になるためのフォーマット作り、制作項目のチェックリスト作り、クラウドアップ
13	／	講義・演習	現場マネジメント・アーティストケアを学ぶ	ミュージシャンのパフォーマンスが高くなるために必要な環境をどう作っていくか考える
14	／	講義・演習	現場マネジメント・アーティストケアを実践する	手話指導やリハーサル時間外でどのようにコミュニケーションを構築していくか実践する
15	／	講義・演習	現場マネジメント・アーティストケアを実践する	キャストインの決定した段階で担当マネージャーを配置する

16	／	講義・演習	現場マネジメント・アーティストケアを実践する	ホールリハーサル実習。タイムテーブルに従い円滑に進行できるようサポートする
17	／	講義・演習	ミュージカル本番	
18	／	講義・演習	人を使う、人に教えることについて学ぶ	各セクション毎に練習とミッション遂行。
19	／	講義・演習	業界対策に関する講義を行う	学んだ様々な対策を自身の業種や進路になぞらえて考える
20	／	講義・演習	イベント運営を主催者目線で考える	コンセプトワークとマネジメントについて話し合う
21	／	講義・演習	イベント企画を多方向から考える1	題材を基に各自のアイデアや事例を出し合いまとめる
22	／	講義・演習	イベント企画を多方向から考える2	題材を基に各自のアイデアや事例を出し合いまとめる
23	／	講義・演習	組織としてのイベント企画を行う1	卒業進級展を題材に運営計画を打ち合わせる
24	／	講義・演習	組織としてのイベント企画を行う2	卒業進級展を題材にタイムテーブル・企画書を作成する
25	／	講義・演習	組織としてのイベント企画を行う3	卒業進級展を題材にタイムテーブル・企画書を作成する
26	／	講義・演習	組織としてのイベント企画を行う4	卒業進級展を題材に出演者とのミーティングを行う
27	／	講義・演習	組織としてのイベント制作を行う1	卒業進級展を題材に出演者とのミーティングを行う
28	／	講義・演習	組織としてのイベント制作を行う2	卒業進級展を題材にリハーサル計画・プロモーションプランを完成する
29	／	講義・演習	組織としてのイベント制作を行う3	卒業進級展を題材にリハーサル運営とプロモーションを行う
30	／	試験	卒業進級展本番	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	音楽理論 ( Music thory )	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	今藤雅博
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 月曜1限
教員の略歴	2007年よりミュージシャンとしてアーティストの演奏サポート、セッション、作編曲で活動。						
授業の学習内容	マイナーダイアトニックコード ノンダイアトニックなドミナントコード テンションノート						
到達目標	マイナーダイアトニックコードの仕組みと、コード機能を理解する。 ノンダイアトニックなドミナントコードを理解する。 各コードで使用可能なテンションノートを理解する。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ドミナント系コードのテンションノートを学ぶ①	テンションの組み合わせについて復習する
2	/	講義	ドミナント系コードのテンションノートを学ぶ②	テンションの組み合わせについて復習する
3	/	講義	借用されたサブドミナントマイナーコードを学ぶ	借用された場合のテンションの違いを復習する
4	/	講義	変則的なサブドミナントコードを学ぶ	起源と使用法、テンションノートを復習する
5	/	講義	ディミニッシュコードを学ぶ	使用法とテンションノートを復習する
6	/	講義	アヴェイラブルノートスケールを学ぶ 導入	テンションノートとの関係性についてを復習する
7	/	講義	アヴェイラブルノートスケールを学ぶ①	ドミナント以外のコードを扱って復習する
8	/	講義	アヴェイラブルノートスケールを学ぶ②	ドミナント系コードを扱って復習する
9	/	試験	テスト	これまでの内容を復習する
10	/	講義	和声学の基礎知識を学ぶ	配分、禁則事項についてを復習する
11	/	講義	3和音基本形を学ぶ①	バス課題を復習する
12	/	講義	3和音基本形を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
13	/	講義	3和音 転回形を学ぶ①	バス課題を復習する
14	/	講義	3和音 転回形を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
15	/	講義	転調と反復進行を学ぶ①	バス課題を復習する

16	／	講義	転調と反復進行を学ぶ②	バス課題を復習する
17	／	講義	転調と反復進行を学ぶ③	ソプラノ課題を復習する
18	／	講義	転調と反復進行を学ぶ④	ソプラノ課題を復習する
19	／	講義	属七和音を学ぶ①	バス課題を復習する
20	／	講義	属七和音を学ぶ②	バス課題を復習する
21	／	講義	属七和音を学ぶ③	バス課題を復習する
22	／	講義	属七和音を学ぶ①	ソプラノ課題を復習する
23	／	講義	属七和音を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
24	／	講義	属七和音を学ぶ③	ソプラノ課題を復習する
25	／	講義	副七和音を学ぶ①	バス課題を復習する
26	／	講義	副七和音を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
27	／	講義	属九和音を学ぶ①	バス課題を復習する
28	／	講義	属九和音を学ぶ②	バス課題を復習する
29	／	講義	属九和音を学ぶ②	ソプラノ課題を復習する
30	／	試験	テスト	これまでの内容を復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 iPad教材、ワークブック、五線紙、筆記用具				

科目名 (英)	イヤートレーニング (Ear Training)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	今藤雅博
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	年間 火曜2限
教員の略歴	2007年よりミュージシャンとしてアーティストの演奏サポート、セッション、作編曲で活動。						
授業の学習内容	リズム打ち 視唱 聴音						
到達目標	音程、リズム、メロディーを声に出して読み取れる ハ長調の旋律聴音ができる						
評価方法と基準	1) 定期試験60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義・演習	オリエンテーション～2年次の概要を説明する	1年時の復習
2	/	講義・演習	2声課題を聴き取り、譜面におこす	ト音記号を復習する
3	/	講義・演習	3声課題を聴き取り、譜面におこす	ヘ音記号を復習する
4	/	講義・演習	聴き取り方について学ぶ	短い課題を復習する
5	/	講義・演習	効果音について学ぶ	教科書10Pを復習
6	/	講義・演習	聴いたリズムを単純に再現する	教科書12Pを復習
7	/	講義・演習	聴いたリズムをビートを感じながら再現する	教科書13Pを復習
8	/	講義・演習	聴いたリズムをビートとバーを感じながら再現する	教科書14Pを復習
9	/	講義・演習	聴いたリズムをビートとバーを感じながら再現する	教科書14P～21Pを復習
10	/	講義・演習	聴いた音をスケッチするトレーニング/音を図面に表す	教科書22P～23Pを復習
11	/	講義・演習	聴いた音をスケッチするトレーニング/現代音楽を図面に表す	教科書24P～27Pを復習
12	/	講義・演習	前期まとめ	変化音、2声旋律の聴き取り方等
13	/	試験	テスト	これまでの総復習をする
14	/	講義・演習	聴いたメロディー単純に再現する	教科書28Pを復習
15	/	講義・演習	聴いたメロディーをビートを感じながら再現する	教科書29P～31Pを復習

16	／	講義・演習	聴いたメロディーをビートとバーを感じながら再現する	教科書32P～38Pを復習
17	／	講義・演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	苦手な跳躍があればよく歌う事
18	／	講義・演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	移勢リズムに注意する
19	／	講義・演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	移勢リズムに注意する
20	／	講義・演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	大きい跳躍に注意する
21	／	講義・演習	単旋律聴音と2声聴音を聴き取り、譜面におこす	大きい跳躍に注意する
22	／	講義・演習	コードを聴き取り、譜面におこす	Triadでコードタイプの確認
23	／	講義・演習	3和音を聴き取り、譜面におこす	aug dimの響きに慣れること
24	／	講義・演習	4和音を聴き取り、譜面におこす	響きの特徴を自分なりに区別すること
25	／	講義・演習	4和音を聴き取り、譜面におこす	苦手なコードタイプがあれば復習
26	／	講義・演習	指揮法のトレーニングを行う	教科書93P～98Pを復習
27	／	講義・演習	様々な表紙のリズムをトレーニングする	教科書99P～101Pを復習
28	／	講義・演習	様々な片のメロディーをトレーニングする	教科書102P～110Pを復習
29	／	講義・演習	1年間の振り返りを行う	これまでの内容を整理を復習する
30	／	試験	テスト	これまでの総復習をする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 iPad教材、プリント配布、五線紙、筆記用具				



科目名 (英)	コンピューターミュージックⅡ (Computer MusicⅡ)		必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	板橋 香明
	学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 金曜1・2限
教員の略歴	専門学校卒業後、アニメ・劇伴楽曲の制作を担当							
授業の学習内容	コンピューターを使用し、MIDIデータおよびAudioデータの作成のノウハウを習得する。							
到達目標	Cubaseを使いMIDIおよびAudioデータを作成できるようになる。 制作する作品が業界基準のアレンジ、音質に仕上げられるレベルを目指す。							
評価方法と基準	授業内評価40% 定期試験 30% データ提出 30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義・実習	外部・内部・機材の説明	説明内容の理解・復習
2	/	講義・実習	MIDIデータの作成	ストリングスのプログラミング
3	/	講義・実習	MIDIデータの作成	オルガンのプログラミング
4	/	講義・実習	MIDIデータの作成	ブラスのプログラミング
5	/	講義・実習	MIDIデータの作成	パーカッションのプログラミング
6	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	EDM①
7	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	EDM②
8	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	JAZZ①
9	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	JAZZ②
10	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	JAZZ③
11	/	講義・実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
12	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
13	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
14	/	講義・実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシーケンズソフトを使用し楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
15	/	試験		

16	/	講義・実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
17	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
18	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
19	/	講義・実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を得得する。
20	/	講義・実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
21	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
22	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
23	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
24	/	講義・実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を得得する。
25	/	講義・実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
26	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
27	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
28	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
29	/	講義・実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシークエンスソフトを使用し楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を得得する。
30		試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	コンピューターミュージックⅢ (Computer MusicⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	板橋 香明
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 土曜1・2限
教員の略歴	専門学校卒業後、アニメ・劇伴楽曲の制作を担当						
授業の学習内容	コンピューターを使用し、MIDIデータおよびAudioデータの作成のノウハウを習得する。						
到達目標	Cubaseを使いMIDIおよびAudioデータを作成できるようになる。 卒業制作として年間を通して各自が40分以上のCDアルバムを制作し、卒業進級展にてプレゼンテーションを行う。						
評価方法と基準	授業内評価40% 定期試験 30% データ提出 30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義・実習	外部・内部・機材の説明	説明内容の理解・復習
2	/	講義・実習	MIDIデータの作成	オーケストラのプログラミング①
3	/	講義・実習	MIDIデータの作成	オーケストラのプログラミング②
4	/	講義・実習	MIDIデータの作成	オーケストラのプログラミング③
5	/	講義・実習	MIDIデータの作成	オーケストラのプログラミング④
6	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作①
7	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作②
8	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作③
9	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作④
10	/	講義・実習	MIDIデータ・Audioデータの作成	オリジナル作品制作⑤
11	/	講義・実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
12	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
13	/	講義・実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
14	/	講義・実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシーケンズソフトを使用し楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を習得する。
15	/	試験		

16	／	講義・実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
17	／	講義・実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
18	／	講義・実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
19	／	講義・実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシーケンスソフトを使用し楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を得得する。
20	／	講義・実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
21	／	講義・実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
22	／	講義・実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
23	／	講義・実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
24	／	講義・実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシーケンスソフトを使用し楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を得得する。
25	／	講義・実習	ワークショップ・課題を提示	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
26	／	講義・実習	ワークショップ・課題作成①	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
27	／	講義・実習	ワークショップ・課題作成②	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
28	／	講義・実習	ワークショップ・課題作成③	これまでの学習内容を包括したオリジナル楽曲を作成する。
29	／	講義・実習	ワークショップ・課題提出	MIDIシーケンスソフトを使用し楽曲制作にDTMシステムを積極的に活用できる技術を得得する。
30		試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	作曲・編曲Ⅱ (Composition / ArrangementⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	稲垣達也
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時間 木曜1・2限
教員の略歴	1982年よりピアニスト・作編曲家として活動。Jazz Popsをベースにジャンルフリーに作曲演奏活動し、CDもリリース。2004年にはNHK番組の音楽も担当。						
授業の学習内容	①ジャンル別MIDIデータファイルをCubaseにドラッグ＆ドロップし分析してメロディーを付ける(作曲する) ②コード進行パターン>コード先行でメロを考えよう>メロディーの音の選び方(コード内外) 始まるタイミング(強起弱起) ③コードの機能(T、SD、Dとその代理コード、セカンダリードミナント)>コード進行を作る>リハーモナイズ ④メロディー先行で作曲>コードをつける 歌詞先行の作曲 ⑤①～④を完全なWAVデータとして仕上げるためDAWソフト(Cubase)で楽器別の打ち込み技術、Mix技術を習得する						
到達目標	鍵盤で様々なコードを弾くことができ、かつ転回することができる。 長く演奏され、スタンダードとなっている曲のメロディー、コード進行、アレンジをアナライズし学ぶことができる力を付ける メロディーにコード付けができる。また、適切な楽器構成、Groove(リズム)でアレンジできる 与えられたコード進行、リズム(Groove)を元にメロディーを思い浮かべ作曲できる 映像のBGMを作曲&アレンジ--この際インストの曲も作曲できるようになる オリジナル曲を作曲・アレンジ・完パケWAVデータ>Demoデータをして発表できるようにする。						
評価方法と基準	1) 定期テスト30% 2) 提出課題30% 3) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	ガイダンス、アンケートを行う	アンケート回答の作成・提出する
2	/	演習	8 & 16 beat PopsのCubaseへのTr別に読み込む方法を習得する	Hyper Groove (Rock & Pops) のsmfファイル01のデータを自宅でも解析する
3	/	演習	様々なウィンドウから音の情報を取り取り各自のアレンジの技術に生かす	Hyper Groove (Rock & Pops) のsmfファイル01のデータを自宅でも解析する
4	/	演習	前週のデータ①のOrg、Gt、Bassパートを聴き、キーエディター画面でエディットする	各和音の構成音、ベース音を確認しながらコードネーム化する
5	/	演習	3つのBlue Note = b3 #4(b5) b7を使いこなす	Blue Note Scaleから#4を除いたMinor Pentatonicを使う
6	/	演習	8 & 16 beat Popコードの解析--Org Trキーエディター	構成音を五線紙に書き出す
7	/	演習	8 & 16 beat Popコードの解析--Org Trキーエディター	Bass Trを確認の上コードネーム確定する
8	/	演習	Blues Rock (HG3>GS>24.BL.S)「Crossroads」(エリック・クラプトン)	各々のコード進行、使われているスケールを解析する
9	/	演習	Blues Rock (HG3>GS>24.BL.S)「Can't Buy Me Love」(ビートルズ)	各々のコード進行、使われているスケールを解析する
10	/	演習	ワークショップ・楽曲制作を行う①	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
11	/	演習	ワークショップ・楽曲制作を行う②	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
12	/	演習	ワークショップ・楽曲制作を行う③	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
13	/	演習	ワークショップ・課題を提出する	添削を基に最終調整を行う
14	/	演習	前期の振り返りと復習	
15	/	前期試験		

16	／	演習	British Rock (HG3>GS>20_BK_S)MP3_DATAフォルダ>20BRTRCK.MP3	The Police「Every Breath You Take～見つめていたい」
17	／	演習	コード進行、バンドとしての構成を分析使われているDTMの技術も研究する	ボズ・スキヤッグス「We are all alone」を参考に作業する
18	／	演習	前回の曲をバックにいくつかの楽器でad-lib soloを考える	「We are all alone」をアナライズする
19	／	演習	ブラック・コンテンポラリーデータを再生しながらメロディーを付ける	「September」(Earth Wind & Fire)をアナライズする
20	／	演習	ブルース Blue NoteBlueの3音-- b3 #4(b5) b7を使用したメロディ作りを行う	<Jazz blues>CとFで Blue Note Scaleを作る① C Jam Blues (C blues)
21	／	演習	ブルース Blue NoteBlueの3音-- b3 #4(b5) b7を使用したメロディ作りを行う	<Jazz blues>CとFで Blue Note Scaleを作る② Bag's Groove (F blues)
22	／	演習	<アドリブ即興演奏>F bluesにおけるad-libフレーズの作り方を学ぶ	ad-libアドリブ(即興演奏)の練習を行う
23	／	演習	Funk RockバックにGt S.Sax Epなどのアドリブソロを考える	音源と譜面からアナライズする
24	／	演習	ワークショップ・楽曲制作を行う①	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
25	／	演習	ワークショップ・楽曲制作を行う②	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
26	／	演習	ワークショップ・楽曲制作を行う③	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
27	／	演習	ワークショップ・楽曲制作を行う④	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
28	／	演習	ワークショップ・課題を提出する	添削を基に最終調整を行う
29	／	演習	後期の振り返りと復習	
30	／	前期試験		
準備学習 時間外学習			<夏休み課題> 「かっこいいコード進行」smf、「Hyper Groove3」MIDIデータとmp3データをCubaseに読み込み 2つ以上のデータにメロを付けるとともにサビを考えフルコーラスのオリジナル曲を完成させ 提出	
【使用教科書・教材・参考書】				
「キーボード・バックギングパターン138」略KB 「Hyper Groove3」略HG3 Inst Ensemble(黒瀬 寛幸) I & II				

科目名 (英)	作曲・編曲Ⅲ	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	稲垣達也
	(Composition / ArrangementⅢ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 金曜1・2限
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)						
教員の略歴	1982年よりピアニスト・作曲家として活動。Jazz Popsをベースにジャンルフリーに作曲演奏活動し、CDもリリース。2004年にはNHK番組の音楽も担当。						
授業の学習内容	<p>☆405教室---各自88鍵の電子ピアノがあることを生かして、ピアノの正しい奏法を学ぶ！！</p> <p>♪模範アレンジされたMIDIファイル、mp3データ&gt;Cubaseへ読み込む&gt;キーエディター、各自のピアノで確認</p> <p>&gt;五線紙に譜面として書き取る。&gt;和音は必ずコードネーム化する。キーボードバックアップパターンのリードシートは三和音しか書いていないので譜面や音源を聞いて7th or Δ7th やテンション(9th 11th 13th)をコードネームに書き入れる</p> <p>♪模範アレンジされたデータを再生しながら、浮かんだメロディーを手元の電子ピアノで弾いて録音&gt;五線に書き留める or MIDIインターフェースで各自のPCと電子ピアノをつなぎCubaseのTrlにMIDIデータとして録音する(自由に変更修正できるのでこれが一番良いがmidiインターフェースが必要)</p>						
到達目標	<p>鍵盤で様々なコードを弾くことができ、かつ転回することができる。</p> <p>長く演奏され、スタンダードとなっている曲のメロディー、コード進行、アレンジをアナライズし学ぶことができる力を付ける</p> <p>メロディーにコード付けができる。また、適切な楽器構成、Groove(リズム)でアレンジできる</p> <p>与えられたコード進行、リズム(Groove)を元にメロディーを思い浮かべ作曲できる</p> <p>映像のBGMを作曲&amp;アレンジ---この際インストの曲も作曲できるようになる</p> <p>オリジナル曲を作曲・アレンジ・完パケWAVデータ&gt;Demoデータをして発表できるようにする。</p>						
評価方法と基準	1) 定期テスト30% 2) 提出課題30% 3) 授業内評価40%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	/	演習	移調と転調の違い(コードの移調)を学ぶ「キーボード・バックアップ138+付属音源」	音符の譜面で弾けるように練習する			
2	/	演習	移調と転調の違い(コードの移調)を学ぶ「キーボード・バックアップ138+付属音源」	リードシート音源に被せて弾けるようにする			
3	/	演習	移調と転調の違い(コードの移調)を学ぶ「キーボード・バックアップ138+付属音源」	バックアップ音源にメロディーを作曲する			
4	/	演習	Pops メジャーKey ペダルポイントを学ぶ	① p8~9パターン01~03をコード進行アナライズする			
5	/	演習	<テンション>基本コードからテンションの見つけ方を学ぶ	基本コードの全音上のmコード=(9, 11, 13)を復習する			
6	/	演習	分数コードを学ぶ	ベース音をRとして3rdや5thの省略されたテンションコード。分子が3和音の時U.T.を身に付ける			
7	/	演習	Piano奏法を学ぶ脱力>指先が鍵盤に触っている状態で指から指へと瞬時に重さを移動する	mp3データ>Cubaseへの読み込み、キーエディターなどで確認しながら譜面に起こし、コードネーム化出来るようにする。			
8	/	演習	Piano奏法を学ぶペダルの踏み替えのタイミングを練習する	Bassが弾いている音(R, 3rd, 5th, 7th)を確認し、R以外ならC/E Bb/C Gm7/Cのように分数コードで表記する。			
9	/	演習	Piano奏法を学ぶフィンガートレーニング、ハノン、スケールを学ぶ	Bassが弾いている音(R, 3rd, 5th, 7th)を確認し、R以外ならC/E Bb/C Gm7/Cのように分数コードで表記する。			
10	/	演習	Pops メジャーKeyを学ぶ②P10~11 パターン04~07楽器:パッド、ローズ、シンセ・リード etc.	左記音源のコード進行を分析>コードスケールを割り出し音源をバックアップして再生しながらメロディーを作曲する。			
11	/	演習	Orgの奏法 g1ssを練習する①カントリー・ポップ p20~21 テンポ 80 bpm ♪パターン 01~03 音源 7, 8	①「ジャンバラヤ」、「Top of the World」(カーペンターズ)、「カントリーロード」(ジョンデンバー)を練習する			
12	/	演習	Orgの奏法 g1ssを練習する②カントリー・ロック p22~23 テンポ 110 bpm ♪パターン 01~03 音源 9, 10	② C.C.R.「雨を見たかい」「ブラウドメアリー」を練習する			
13	/	演習	Pops マイナーKeyを練習する ① p14~16 ♪パターン 01~03 Gtとの役割分担を意識する	Orgの奏法、打ち込み方法を復習する			
14	/	演習	マイナーKeyを練習する② p16~19 ♪パターン 06~11 (音源 7, 8)を練習する	Orgの奏法、打ち込み方法を復習する			
15	/	前期試験					

16	／	演習	メロディーへのコード付を学ぶ	課題のメロディーを基にコードパターンを複数考える
17	／	演習	リハーモナイズを学ぶ	課題の楽曲を基にコードパターンを複数考える
18	／	演習	コードネームの割り出しetcを学ぶ	課題の楽曲を基にコードネームを考える
19	／	演習	コードスケールを学ぶ	メジャーのダイアトニックのモードを復習する
20	／	演習	AORを聴きながらコード進行、バンドとしての構成を分析する。使われているDTMの技術も研究する	ボズ・スキヤッグス「We are all alone」をアナライズする
21	／	演習	ブラック・コンテンポラリーの音源を鳴らしながら、メロやソロを考えよう	2年次の夏に課題とした「September」(Earth Wind & Fire)などを聞き直してみる
22	／	演習	Funk Fusionの代表曲「Rio Funk」を学ぶGtリリトナーの有名なインスト曲	「Rio Funk」をアナライズする
23	／	演習	ワークショップ・楽曲制作①	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
24	／	演習	ワークショップ・楽曲制作②	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
25	／	演習	ワークショップ・楽曲制作③	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
26	／	演習	ワークショップ・楽曲制作④	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
27	／	演習	ワークショップ・楽曲制作⑤	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
28	／	演習	ワークショップ・楽曲制作⑥	これまでの学習内容を基にしたオリジナル楽曲を作成する。
29	／	演習	ワークショップ・課題提出	添削を基に最終調整を行う
30	／	前期試験		
準備学習 時間外学習			<夏休み課題> 「かっこいいコード進行」smf、「Hyper Groove3」MIDIデータとmp3データをCubaseに読み込み2つ以上のデータにメロを付けるとともにサビを考えフルコーラスのオリジナル曲を完成させ提出	
【使用教科書・教材・参考書】 「キーボード・バックギングパターン138」略KB 「Hyper Groove3」略HG3 「かっこいいコード進行」略CP				



科目名 (英)	レコーディングⅡ (RecordingⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	小出一之
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	前期 月曜 1・2 限
教員の略歴	2003年よりレコーディングエンジニアとしてMonkeymajik等のアーティストを担当、現在はプロデューサーとしてアーティスト育成も行う						
授業の学習内容	スタジオ内の各種機材を使用しコンピューターを使用した録音作業を実践し学習する。						
到達目標	一般的な録音作業を理解し実践出来るようになる。						
評価方法と基準	授業内評価:30%、試験:70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ProToolsの初期設定を理解する。	各種音質設定をサンプルを参考に比較する。
2	/	講義・実習	ProToolsの各種トラックを理解する。	オーディオ、MIDI、ビデオトラックなどを複合したセッションを作成してみる。
3	/	講義	タイムコードとクロックを理解する。	MIDI機器を複数台リンクして同期を試してみる。
4	/	講義・実習	ステレオマイクセッティングを理解する。	ステレオマイクを設置して録音し、モノラルとの違いを比較する。
5	/	講義・実習	実践的なEQの使い方を考える。	ドラムの録音にイコライザーを使用してみる。
6	/	講義・実習	実践的なコンプレッサーの使い方を考える。	ドラムの録音にコンプレッサーを使用してみる。
7	/	講義・実習	実践的なディレイの使い方を考える。	ヴォーカルの録音にディレイを使用してみる。
8	/	講義・実習	実践的なリバーブの使い方を考える。	ヴォーカルの録音にリバーブを使用してみる。
9	/	講義・実習	HAの使い方を考える。	ミキサー内蔵のマイクプリアンプや外付けタイプの機種など特徴を覚える。
10	/	講義	トランスの役割を理解する。	スタジオ内の電源口の電圧の違いと、115Vの用途を把握する。
11	/	講義・実習	DIとリアンプを理解する。	リアンプ時の出力レベル範囲を把握し、実際に音を録音して試聴する。
12	/	試験	これまでの理解を確かめ再確認する。	
13	/	講義・実習	実音とデジタルのレーテンシーを考察する。	ディレイ(遅延)を軽減させる手法とマシンスペック・パワーのバランスを各機で試してみる。
14	/	講義・実習	デジタルとアナログの接続ケーブルを学ぶ。	アナログ接続ケーブルのメーカー、グレード、長さなど複数試して違いを確かめる。
15	/	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。

16	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
17	／	講義・実習	ProTools のデジタル接続を理解する。	PC、インターフェース、ミキサーの間でデジタル使用による音質の違いを確かめる。
18	／	講義・実習	マルチコンプレッサーを理解する。	プラグインを利用して帯域ごとにGAINを調節して音色を確認する。
19	／	講義・実習	アナログレコーダーを理解する。	アナログの音質の長所、短所とテープを扱う上での注意点を把握する。
20	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
21	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
22	／	講義・実習	ProTools のバウンスを理解する。	仕事内容、目的に応じて作成するファイル形式が異なる事を復習し、把握する。
23	／	講義・実習	M-Sマトリックスを学ぶ。	ステレオ信号を、Mid成分(L+R)とSide成分(L-R/R-L)の3チャンネルに分けてMIXしてみる。
24	／	講義・実習	マスタリングについて理解する。	サンプルセッションを使用してマスタリングを完成させる。
25	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
26	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
27	／	講義・実習	PCM録音と1Bit録音について理解する。	1bit録音で作成された音源を視聴し、音質を確かめる。
28	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
29	／	実習	ワークショップ:録音実習を行う。	前週までで学んだ知識を活用してデモ音源を作成する。
30	／	試験	一年間の理解を確かめ再確認する。	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	レコーディングⅢ (RecordingⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	小出一之
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限
教員の略歴	2003年よりレコーディングエンジニアとしてMonkeymajik等のアーティストを担当、現在はプロデューサーとしてアーティスト育成も行う						
授業の学習内容	レコーディング及びMIX、マスタリング技術秘術の習得						
到達目標	ワンオペにてレコーディングを完結MIXマスタリングまで仕上げる。						
評価方法と基準	筆記試験、(20問)実習(レコーディングマイキング、サウンドチェック)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義・実習	ミキサーコンソールを使用して声を録音する	録音データの整理と処理作業を行う
2	/	講義・実習	ミキサーコンソールを使用して声を編集する	録音データの整理と処理作業を行う
3	/	講義・実習	Protoolsの高度な設定な実践する	2年次に学んだ技術を事前に復習しておく
4	/	講義・実習	DIを使ったライン録音を実践する	録音データの整理と処理作業を行う
5	/	講義・実習	ドラムマイキングとサウンドチェックを行う	テスト録音データやクリックトラックの整理と処理作業を行う
6	/	講義・実習	ドラムレコーディングとミキシングを行う	ドラムセットのPAN・奥行・コンプなど活用する
7	/	講義・実習	ギター、ベースレコーディングを行う	ギターはDRYとWETの両方を録音し、シミュレーターも活用する
8	/	講義・実習	ProtoolsとDualityを使用したMIXについて学ぶ	2年次に学んだ技術を事前に復習しておく
9	/	講義・実習	ProtoolsとDualityを使用したMIXについて学ぶ	2年次に学んだ技術を事前に復習しておく
10	/	講義・実習	マスタリング作業を実践する	2年次に学んだ技術を事前に復習しておく
11	/	講義・実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ドラム・ベースのレコーディングを行う
12	/	講義・実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ギター・ヴォーカルのレコーディングを行う
13	/	講義・実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ラフミックス作業を行う
14	/	講義・実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ミックス・マスタリング作業を行う
15	/	試験	テスト	

16	／	講義・実習	前期の復習と後期のスケジュールを確認する	録音データを聞き返して反省点を考えておく
17	／	講義・実習	アウトボード、リアンプ実習を行う	パラメータを変えていくつかのパターンを録音
18	／	講義・実習	Protoolsを使用したDTM作業を行う	事前に楽曲の楽譜を準備しておく
19	／	講義・実習	ミキシング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
20	／	講義・実習	ミキシング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
21	／	講義・実習	マスタリング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
22	／	講義・実習	マスタリング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
23	／	講義・実習	サミング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
24	／	講義・実習	サミング実習を行う	企業課題の楽曲データを準備しておく
25	／	講義・実習	CD入稿DDPIについて学ぶ	製品化されるまでの作業工程を復習する
26	／	講義・実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ドラム・ベースのレコーディングを行う
27	／	講義・実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ギター・ヴォーカルのレコーディングを行う
28	／	講義・実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ラフミックス作業を行う
29	／	講義・実習	ミュージシャンとコラボレーションして録音実習を行う	ミックス・マスタリング作業を行う
30	／	試験	テスト	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	音楽ビジネスⅡ (Music BusinessⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	唐澤淳
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 金曜1・2限
教員の略歴	1992年よりフリーランスローディーとして活動し、現在は起業してアーティスト及びクリエイターの育成やマネジメントなどを手掛ける						
授業の学習内容	夢というものから、自分の目指す「目標点」を見つけ、そこに到達するための「計画」を立て、必要なミッションを遂行するという流れを習慣化し、結果を残すことを目指す。 一般的な事例も学びながら、日々の中で計画の練り直しや、目標点の再確認などを、各個人のケースに合わせて進めます。						
到達目標	各自が定めた目標における計画の中で、遂行率に対して80%以上を目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験(%) : 0% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	授業の概要説明と目標設定の仕方を学ぶ	自分の目標地点を明確に探す
2	／	講義・実習	プロジェクト ミーティングを行う	各自見せたいパフォーマンスを考え、グループを組織する
3	／	講義・実習	プロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
4	／	実習	プロジェクト 発表を行う	MCや演出を含めたパフォーマンスを考える
5	／	講義・実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる
6	／	講義・実習	計画表作成・スキルチェックを行う	各自、達成度合いの確認方法を明確にしてくる
7	／	講義・実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	アーティスト写真・プロフィールシートの制作方法を学び実践する
8	／	講義・実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	デモ音源を制作の制作方法を学び実践する
9	／	講義・実習	オーディション対策 プロモーションツールを制作する	Youtubeなどの映像コンテンツの制作方法を学び実践する
10	／	講義・実習	オーディション対策 パフォーマンスを実演する	各自、グループ練習及び作品制作を行う
11	／	講義・実習	オーディション対策 パフォーマンスを実演する	各自、グループ練習及び作品制作を行う
12	／	講義・実習	オーディション対策 パフォーマンスを実演する	各自、グループ練習及び作品制作を行う
13	／	講義・実習	オーディション対策 パフォーマンスを実演する	各自、グループ練習及び作品制作を行う
14	／	講義・実習	計画表作成・スキルチェックを行う	各自、達成度合いの確認方法を明確にしてくる
15	／	講義・実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる

16	／	講義・実習	ミュージカルプロジェクト ミーティングを行う	企業課題背あることを認識し、コンセプトとミッションを明確にして役割を担う
17	／	講義・実習	ミュージカルプロジェクト スキルチェックを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
18	／	講義・実習	ミュージカルプロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
19	／	講義・実習	ミュージカルプロジェクト リハーサルを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
20	／	講義・実習	ミュージカルプロジェクト 合同リハを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
21	／	講義・実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホールリハを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
22	／	講義・実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホールゲネプロを行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
23	／	実習	ミュージカルプロジェクト 外部ホール本番を行う	各自、グループ練習及び作品制作を行う
24	／	講義・実習	現時点での課題確認と計画を調整する	計画を明確にまとめてくる
25	／	講義・実習	Weareプロジェクト 計画チェックを行う	ユニットごとのミーティング
26	／	講義・実習	Weareプロジェクト 資料制作を行う	パフォーマンスの具体的な演出を決定
27	／	講義・実習	Weareプロジェクト リハーサルを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
28	／	講義・実習	Weareプロジェクト リハーサルを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
29	／	講義・実習	Weareプロジェクト ゲネプロを行う	各自音源制作およびパフォーマンス練習
30	／	実習	Weareプロジェクト 本番を行う	企業や業界関係者に見せる事を意識して
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
必要に応じてプリント配布				

科目名 (英)	音楽ビジネスⅢ (Music BusinessⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	及川有正
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 木曜1・2限
教員の略歴	1981年よりプロモーターとしてジャパンレコード、ホットスタッフ・プロモーションにてピチカートVなどのアーティストを手掛ける。						
授業の学習内容	プロダクション、レコード会社に関連する、各種の仕事の説明、それらの関係性について自分の興味を把握する(好きな音楽の分析)、過去の音源の把握 新しいメディアを使ったプロモーションの実際、新人アーティストの発掘と育成方法アーティスト、レコード会社、プロダクションの仕事の内容から、そこに関係する仕事を説明していく。 ライブ、音源制作、マーチャンドイズ等から、総合的な視点で音楽の仕事をとらえられる方向を示す。 ソーシャルメディア等 新しいプロモーションの実際と、音楽を流通させる方法を、アップ・トゥ・デートで考えていく。						
到達目標	音楽業界のいろいろな仕事とその関係性を理解する。それとともに、激動する音楽シーンの新しい動きを把握し ともに、これからの音楽シーンを考える。						
評価方法と基準	① イベント企画書の制作 50% ② イベント制作演習 30% ③ まとめのレポート 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義・実習	音楽業界の変遷を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
2	／	講義・実習	1998年にピークを迎えた音楽業界の歴史を把握する	グループミーティングを行いレポートを作成する
3	／	講義・実習	様々なプロモーション方法を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
4	／	講義・実習	宣伝方法の実際を把握する	グループミーティングを行いレポートを作成する
5	／	講義・実習	メディアの変化、新しい動きと前回までの歴史とを比較する	グループミーティングを行いレポートを作成する
6	／	講義・実習	音源制作の実際を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
7	／	講義・実習	レコーディング風景とスタッフの役割を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
8	／	講義・実習	経費について学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
9	／	講義・実習	収入、支出を把握する	グループミーティングを行いレポートを作成する
10	／	講義・実習	音源・ライブ制作費の実際を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
11	／	講義・実習	プロダクションについて学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
12	／	講義・実習	アーティストをサポートする立場からのスタッフの役割を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
13	／	講義・実習	レコード会社の現状を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
14	／	講義・実習	インディーズの現状を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
15	／	試験	まとめ レポート	

16	／	講義・実習	インディーズの運営①実際の仕事内容を知る	グループミーティングを行いレポートを作成する
17	／	講義・実習	インディーズの運営②具体的な仕事内容を理解する	グループミーティングを行いレポートを作成する
18	／	講義・実習	新しいメディアを使いこなす	グループミーティングを行いレポートを作成する
19	／	講義・実習	映像編集の仕事を学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
20	／	講義・実習	メディアのアップロードのルールを学ぶ	グループミーティングを行いレポートを作成する
21	／	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
22	／	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
23	／	実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
24	／	講義・実習	ワークショップ ライブの反省	ライブを通して、アーティスト、スタッフとどのようにコミュニケーションをとるか考える
25	／	講義・実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
26	／	講義・実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
27	／	講義・実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
28	／	講義・実習	ワークショップ ライブ開催 宣伝・実際の運営を行う	業務報告レポートを作成する・反省秋を行う
29	／	講義・実習	ワークショップ ライブの反省	ライブを通して、アーティスト、スタッフとどのようにコミュニケーションをとるか考える
30	／	試験	まとめ レポート	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名 (英)	楽器レッスンⅡ (KeyboardⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	稲垣達也
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 水曜1・2限
教員の略歴	1982年よりピアニスト・作曲家として活動。Jazz Popsをベースにジャンルフリーに作曲演奏活動し、CDもリリース。2004年にはNHK番組の音楽も担当。						
授業の学習内容	1年次に習得したPianoの基礎演奏技術(脱力>指に重さが乗せられる、ハノン、コードネームによる演奏、ペダル)をもとに2年次はハイフィンガーによる指の筋力の強化、ハノンによる指の分離3-4 4-5、スケルトトレーニング 様々なジャンルの楽曲のアナライズと他の楽器～バンドにおけるKeyboardの役割、演奏法、コードのボイスイングを総合的に習得する。 音符の譜面で弾けるようになったら、リードシートだけで弾けるように仕上げる！						
到達目標	音符の読譜力を高め、Piano SoloやPianoだけによる伴奏、弾き語りができるようにする 音符による譜面が無くても、メロディー & コードの譜面(リードシート)で自ら適切なTop noteによるボイスイングができる。 テンションノートを適切に使用できる。 その曲のジャンルに合ったGrooveを音源やスコアから把握し、Gt Dr Bass などアンサンブル内におけるKeybが担う 役割を把握し適切なリズム、Grooveを与える コードネーム、コード進行をアナライズしてコードスケールを把握できる>コード進行に沿ったad-libができる						
評価方法と基準	1) 定期実技テスト50% 2) 授業内評価50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	Pops メジャーKey ①-1 p8~9 ♪パターン 01~03 コード進行アナライズ ペダルポイントとは	「キーボード・バックギン138+付属音源」 音符の譜面で弾けるようになったら、Keyb無しの リードシート音源に合わせて練習する
2	/	実習	コードネーム>まずメジャー三和音に直して弾く	>mなら3rdをb>7thやM7thがあれば付加 >コードの転回によるスムーズな連結 ♪最初のコードのTop noteをメロディーとの兼ね 合いで決め>伴奏として適切な音域に収める
3	/	実習	Pops メジャーKey ①-2 p8~9 ♪パターン 01~03 コード進行アナライズ ペダルポイントとは ソプラノ・ペダルがコードチェン ジしたそれぞれのコードで何の音にあたるか解析 する	基本コードの全音上のmコード=(9、11、13) 分数コード>ベース音をRとして書き直してみると> 3rdや5thの省略されたテンションコード この時の分子が3和音の時U.S.T.
4	/	実習	Pops メジャーKey ② P10~11 ♪パターン04~07 音源 2を練習する	楽器:パッド、ローズ、シンセ・リードで練習する
5	/	実習	①カントリー・ポップ p20~21 テンポ 80 bpm ♪パターン 01~03 音源 7、8を練習する <Rhodesローズ ハモンドOrg スtringsStr> YAMAHA P140 Others(Org Str Clav)	下記楽曲を練習する 「ジャンバラヤ」ハンク・ウィリアムス 「Top of the World」(カーペンターズ) 「カントリーロード」ジョンデンバー
6	/	実習	②カントリー・ロック p22~23 テンポ 110 bpm ♪パターン 01~03 音源 9、10を練習する	下記楽曲を練習する C.C.R.「雨を見たかい」「プライドメアリー」
7	/	実習	Pops マイナーKey ① p14~16 Gtとの役割分担 ♪パターン 01~03 マイナーKey ② p16~19 ♪パターン 06~11を練習する	音源 5 ポップス(ダーク)/リード・シート 音源 6 ポップス(ダーク) に合わせて練習する
8	/	実習	ブラック・ミュージックのGroovyなバックギン P28~33を練習する 同じコード進行だが音源(楽器)とリズムによって 様々なGrooveを生み出す	音源15 リズミック/リード・シート 音源16 リズミック に合わせて練習する

9	/	実習	<BE> W10~12 の課題曲の音源 & keyb譜面も合わせてアナライズ、演奏する	下記楽曲を練習する ① Ain't No Mountain High Enough ② We are the world
10	/	実習	ブルースをBlue Noteから練習する Blue Noteの3音-- b3 #4(b5) b7 ♪Blue Note Scale b3 #4(b5) b7 全て含む ♪Minor Pentatonic b3 b7	Blues Rock (HG3>GS>24_BL_S) 「Crossroads」(エリック・クラプトン) 「Can't Buy Me Love」(ビートルズ) Aメロ 12小節3コードbluesリズム=シャッフル
11	/	実習	<アドリブ即興演奏> F bluesにおけるad-libフレーズの作り方 >スケールの1音、2音、3音、4音、全ての音 稲森康利『First Step』F blues / Bb blues	Solo Pianoを練習する ①「君をのせて」 RH メロ LH 10thのアルペジオの作り方 ② 2 Hand ボイシング / 10thのアルペジオ
12	/	実習	曲のジャンルを説明し、そのジャンルでの成り立ちやセッション、アンサンブル時における必要な知識と対応力のキーポイントを理解し、コード進行とメロディの関係を考える	<Spain>アドリブは取れる人のみで構わないが、使える音を理解する。テンポを変えて演奏し、一人一人がアレンジを考え曲に対しての様々なアプローチを実践する
13	/	実習	曲を通して演奏できる事を目標とし、アドリブ、エンディングをしっかりとできるようにし、次週の録音に向けた対策をとる	<Spain>アドリブは取れる人のみで構わないが、使える音を理解する。テンポを変えて演奏し、一人一人がアレンジを考え曲に対しての様々なアプローチを実践する
14	/	実習	ワークショップ 録音実習を行う	最終確認を行い、録音を行う。録音を確認し、何がよく、何が足りないかを考察し、どうすればよくなるか耳と自己診断を行う
15	/	試験	<Keyb実技試験> コード、スケール(片手→両手)、運指を行う	メジャーキー ③ Intro & Outro p12~13 ♪イントロ 01~03 ピアノのみ、2コード、リズムック ♪アウトロ 01~03
16	/	実習	<BE> ①Uptown Girl (key=Db~) ②Perfectを練習する	曲の練習前に「指のストレッチ」のプリントで腕、手首、指の脱力>腕の重さを指先にかけた奏法により手の筋肉だけに頼る無理な奏法を修正する
17	/	実習	コードネームからのR-3-5-7の見つけ方を学ぶ	例 Dm7 ① D(メジャー)の手の形(鍵盤の色) ② D→Dm 3rdを半音下げる ③ 7th ルートDの全音下の音を加える
18	/	実習	<BE> W4 (5/21)~W6 (6/11) ① Virtual Insanity ハーフタイムシャッフル ② We Are Never Ever Get Back Together	Swing ⇔ Shuffle Swing(倍テン) ⇔ Half time Shuffle *倍テン---Double Time feelを練習する
19	/	実習	<IE> W4~6 The Girl From Ipanema ボサノヴァ 参考 Piano Trio用譜面 バックギン・パターン ボサノヴァ p76~77 ♪パターン01~03 音源39&40を練習する	Pianoテンションコードcloseボイシング(片手) A form(3rd~) B form(7th~)を II m7-V 7- I のコード進行で12keyで練習する
20	/	実習	学園祭担当曲を練習する	P-140 とRD700: Transpose(移調) RD700のOrg音源に対するExpペダルとロータリースピードSlow ⇔ Fastの使い方 RD700本体にセッティングを記憶・保存する方法
21	/	実習	<BE> W7~9 ① Rosanna ② Break Out <IE> W7~9 Spain (Chick Corea) を練習する	ハーフタイムシャッフルの草分けTOTOの「Rosanna」を練習する Jazzにスパニッシュとラテンを加えたChick Corea歴史的名曲「Spain」を音源、映像などを見ながら深く味わう
22	/	実習	<BE> W7~9 ① Rosanna ② Break Out <IE> W7~9 Spain (Chick Corea) を練習する	ハーフタイムシャッフルの草分けTOTOの「Rosanna」を練習する Jazzにスパニッシュとラテンを加えたChick Corea歴史的名曲「Spain」を音源、映像などを見ながら深く味わう

23	/	実習	ブラック・ミュージックのGroovyなバックイング P28~33 同じコード進行だが音源(楽器) とリズムによって様々なGrooveを生み出す ♪パターン 01~11を練習する	音源15 リズミック/リード・シート 音源16 リズミックを模範演奏として練習 に合わせて練習する
24	/	実習	<BE> W10~12 ① Ain't No Mountain High Enoughを練習する	Ain't No Mountain High EnoughのRD700における 音源を選ぶ
25	/	実習	<BE> W10~13 ② We Are the Worldを練習する	We Are the WorldのRD701における音源を選ぶ
26	/	実習	Blues scale⇄マイナーペンタニック F bluesにおけるad-libフレーズの作り方を学ぶ >スケールの1音、2音、3音、4音、全ての音 稲森康利『First Step』F blues / Bb blues	<Jazz blues>を練習する ① C Jam Blues (Cblues) 右手 テーマ&ad-lib 左手 コードの2音(R-5.3rd-7th,7th-3rd)
27	/	実習	Blues scale⇄マイナーペンタニック F bluesにおけるad-libフレーズの作り方を学ぶ >スケールの1音、2音、3音、4音、全ての音 稲森康利『First Step』F blues / Bb blues	<Jazz blues>を練習する ② Bag's Groove (Fblues) 右手 テーマ&ad-lib 左手 コードの2音(R-5.3rd-7th,7th-3rd)
28	/	実習	Blues 12小節 3コードのバックイング(両手) p52~55 ♪パターン 01~07 音源 23、24を練習する	Pianoテンションコードcloseボイシング(片手) A form (3rd~) B form (7th~)を 「枯葉」のLHのみのバックイングをA,Bフォームで <ミュージカルHOMの挿入曲>
29	/	実習	ソウルなバックイング p40~45さらにその先を 今まで通り音源を利用して練習する	Pianoテンションコードcloseボイシング(片手) A form(3rd~) B form(7th~)を II m7-V 7- I のコード進行で12keyで練習する
30	/	試験	Keyb実技試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
キーボード・バックイングパターン138 音源ファイルは2つセット 例 05 ポップスのリードシート(Keyb以外) 06 譜面通りKeyb入り				

科目名 (英)	楽器レッスンⅢ (KeyboardⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	黒瀬寛幸
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 木曜1・2限
教員の略歴	1999年からベースプレイヤーとして活動し、ティーナカリーナなどのサポートやセッション、ベースマガジンへの寄稿でも知られている。						
授業の学習内容	様々なジャンルのグルーヴアナライズ、実演タイムファースト、ピッチアフターの理念を定着音色へのこだわり						
到達目標	リズムに対して嘘をつかず、演奏をリードできる視点、実力を持つ。						
評価方法と基準	1)進捗60% 2)授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	リズムトレーニングを学ぶ	Rhythm Training テキスト読み込み
2	/	実習	リズムトレーニングを学ぶ	Rhythm Training テキスト読み込み
3	/	実習	Rock Groove (8ビート)を学ぶ	ストレートなロックビートを練習する
4	/	実習	Rock Groove (8ビート)を学ぶ	撥音、発音のコントロールを行う
5	/	実習	Rock Groove (8ビート)を学ぶ	音色コントロールを行う
6	/	実習	Hard Rock(8ビート)を学ぶ	ハーフフィールなロックビートを練習する
7	/	実習	Hard Rock(8ビート)を学ぶ	エフェクター等の研究を行う
8	/	実習	Pop Rock(8ビート)を学ぶ	16分も介入するアコギグルーヴを身に付ける
9	/	実習	Pop Rock(8ビート)を学ぶ	音圧コントロールを行う
10	/	実習	Pop Rock(8ビート)を学ぶ	課題曲聞き込みを行う
11	/	実習	Pop Rock(8ビート)を学ぶ	ラウドプレイでのチューニング対策を行う
12	/	実習	Shuffle(Bleus)を学ぶ	ブルース音楽聞き込みと手順整理を行う
13	/	実習	Shuffle(Bleus)を学ぶ	シャッフルポップスを聞き込む
14	/	実習	Shuffle(Bleus)を学ぶ	発音ポイントを考察する
15	/	試験		

16	／	実習	Triplet (12/8)を学ぶ	コードの読み込みを行う
17	／	実習	Funk Groove(Blues & JB)を学ぶ	16分音符を理解する
18	／	実習	Funk Groove(Blues & JB)を学ぶ	ジミヘンコードを理解する
19	／	実習	On Fireの演奏 アンサンブル時における必要な知識と対応力のキーポイントを理解する	テーマが弾ける人は引いてもらい一通り通す事を目標とする
20	／	実習	On Fireの演奏 コード進行とメロディの関係を考える。	アドリブは取れる人のみで構わないが、使える音を理解する
21	／	実習	On Fireの演奏	アドリブを変えて演奏し、一人一人がアドリブを考え曲に対しての様々なアプローチを実践する
22	／	実習	On Fireの演奏	曲を通して演奏できる事を目標とし、アドリブ、エンディングをしっかりとできるように
23	／	実習	Funk Groove(Pops & Fusion)の演奏	ストラミング、コンピング、ミュート、コーストノートを実践する
24	／	実習	R&B (Blues)の演奏	ペンタニックアドリブを練習する オリジナルパターン
25	／	実習	R&B (Pops)の演奏	ペダルコード、ペダルトーンを練習する メジャーペンタニック
26	／	実習	Jazz Fusion(Funk Blues)の演奏	The Chicken 聞き込み、練習する
27	／	実習	Pops (Rock)の演奏	初見対応力(コード)を身に付ける テンポイメージ
28	／	実習	Pops (Slow)の演奏	パレード構成力を身に付ける コード進行からキメを読み込む
29	／	実習	Pops (Arrange)の演奏	独創力を身に付ける 指示出しの方法を学ぶ
30	／	試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 Band Ensemble 課題曲譜面 & 音源 / Inst Ensemble(黒瀬 寛幸) I & II				

科目名 (英)	制作実習Ⅱ (Studio WorkshopⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	條範行
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 水曜1・2限
教員の略歴	1998年より(株)東北共立に所属し、コンサート・舞台等の現場にてPAエンジニアとして活躍する。						
授業の学習内容	卒業までの残り1年間となり、卒業後の就職を具体的に考える 1年生の復習 PA機器接続の理解 個々の楽器の音の作り方を学び、音量・音質・バランスの感覚を習得する。 舞台機構調整技能士3級の実技・ヒアリング・筆記試験の反復練習 作業スピードを上げるにはどうするかを考えさせる						
到達目標	PA機器を全員が接続～音を出せるようにする 舞台機構調整技能士3級全員合格 バンドのミックスバランスを習得する ミュージカル本番を想定した仕込み～本番～バラシの時間を考える						
評価方法と基準	定期テスト 実技テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義・実習	各自卒業後の目標を立て、それに向けてどのようなスキルを磨いていくべきかディスカッションを行う	目標シートを作成する
2	/	講義・実習	仮設PAセットのシステムを理解し、組み立て・接続をできるようになる①	セッティングシート・回線図を作成する
3	/	講義・実習	仮設PAセットのシステムを理解し、組み立て・接続をできるようになる②	グループワークの分担表を作成する
4	/	講義・実習	仮設PAセットのシステムを理解し、組み立て・接続をできるようになる③	設定時間内に作業ができるよう練習する
5	/	講義・実習	周波数の帯域を理解し、自分の耳で変化を聞き分ける訓練を行う①	各種機器に備わっているイコライザーの特性を理解する
6	/	講義・実習	周波数の帯域を理解し、自分の耳で変化を聞き分ける訓練を行う②	メインスピーカー、モニタースピーカー、ヘッドホンなど異なる機器による出音の違いを知る
7	/	講義・実習	デジタル卓を使用して設定方法を習得する①	AD/DAコンバーター・Dante・LAN・マトリックスについて復習する
8	/	講義・実習	デジタル卓を使用して設定方法を習得する②	Wifiとipadアプリでのコントロール・マイク・音源を使用したサウンドチェック復習する
9	/	実習	外部ホール実習、舞台機構を学ぶ	図面を見て内容を理解する
10	/	実習	ライブイベントに向けての準備を行う	出演者情報を基にプランシートを作成する
11	/	実習	ライブイベントに向けてのサウンドチェックを行う	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
12	/	実習	ライブイベントゲネプロ	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
13	/	実習	ライブイベント本番①	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
14	/	実習	ライブイベント本番②	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
15	/	講義・実習	ワイヤレスマイクの種類とチャンネルプランについて習得する	ハンドタイプ、ベルトバックタイプそれぞれのバッテリーやボタン設定などを確認する

16	／	実習	外部ホール実習、ワイヤレスマイクの実演を行う	事前に特定ラジオマイク連盟への申請書類を作成し、送信する
17	／	講義・実習	音作り・エフェクタの使用法を学ぶ	コンプレッサー、リミッターなどダイナミクス系エフェクタの基本的なセッティングを復習する
18	／	講義・実習	音作り・エフェクタの使用法を学ぶ②	リバーブ、ディレイなど空間系エフェクタの基本的なセッティングを復習する
19	／	試験	実技試験:デジタル回線を使用した音響機器の組み立てとオペレートを行う	実際の機器を準備して予習する
20	／	講義・実習	回線表・プランの作成方法を習得する	仮想のライブを見立てて各自で回線表を作成しプラン通りのセッティングを行ってみる
21	／	講義・実習	ミュージカルを想定し回線プランを作成する①	昨年度までの各種資料を基に実際の新曲等を加えたプランをグループで作成する
22	／	講義・実習	ミュージカルを想定し回線プランを作成する②	本番で利用するホールのプラン及びリハーサル用の設定など各種作成してみる
23	／	講義・実習	スピーカーのチューニングを習得する①	ピンクノイズを鳴らしてHI、HI-MID、MID、LOWのなり方を聴き比べる
24	／	実習	外部ホール実習、ミュージカルバンドの実演を体験する	出演者の情報を事前に入手し、円滑な進行ができるよう準備する
25	／	講義・実習	ピンマイクの扱い方を習得する①	ラベリアマイクフォンの特性について教科書とマニュアルを見比べて復習する
26	／	講義・実習	ピンマイクの扱い方を習得する②	実際の現場で取り付けるために必要なテープ類や汗を防ぐ養生用品を復習する
27	／	講義・実習	トラブルシューティング、ステージ上で起こりうるトラブルについて学ぶ①	参考用のライブ映像を鑑賞し、トラブルの起こりやすい環境、場面を考える
28	／	講義・実習	トラブルシューティング、PA卓上で起こりうるトラブルについて学ぶ②	デジタル卓で起こりうる、デジタルループやネットワーク回線トラブルについて復習する
29	／	試験	実技・筆記試験:舞台機構調整士技能認定3級試験を想定したテストを行う	過去問題を参考に予習する
30	／	実習	外部ホール実習、卒業進級展ライブ実習を行う	出演者との綿密な情報交換と、各セッションとのミーティングを行い、クリアにする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
PA入門				

科目名 (英)	制作実習Ⅲ (Studio WorkshopⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	阿部央到
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限	年間 月曜1・2 限
教員の略歴	2001年より(株)東北共立に所属し、コンサート・舞台等の現場にて照明オペレーターとして活躍する。						
授業の学習内容	照明エンジニアを目指すうえで、必要な知識を知る。 基本的な機材の種類や用途、分電盤や調光ユニットについて、調光卓やDMX制御など信号系の把握。 いろんなイベントでの準備から仕込み、シュート、明かり作り、リハーサル、本番、バラシまでの作業内容、作業工程への理解。 照明の作業は大きなイベントになるほどたくさんの人たちと関わる仕事です。あいさつやコミュニケーションの大切さやなども身につける。						
到達目標	仕込みからシュート・本番でのPINスポットの必要性の理解、実技。						
評価方法と基準	実技40%・授業内評価60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義・実習	舞台照明とは何かを知る	校内ホール設備を使用して復習する
2	/	講義・実習	光の三原色を学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
3	/	講義・実習	レンズの種類を学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
4	/	講義・実習	ランプの種類を学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
5	/	講義・実習	カラーフィルターを学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
6	/	講義・実習	照明で使用するケーブルを学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
7	/	講義・実習	照明で使用するコネクタを学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
8	/	講義・実習	仙台PIT照明機材、設備について学ぶ	校内ホール設備を使用して復習する
9	/	実習	外部ホール実習、舞台機構を学ぶ	図面を見て内容を理解する
10	/	講義・実習	ライブイベントに向けての準備する	出演者情報を基にプランシートを作成する
11	/	講義・実習	ライブイベントに向けてのピンスポット練習する	ステージ図面を基にシミュレーションリハーサルを行う
12	/	実習	ライブイベントゲネプロを行う	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
13	/	実習	ライブイベント本番を行う①	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
14	/	実習	ライブイベント本番を行う②	出演者を交えてコラボレーションイベント制作を行う
15	/	実習	ライブイベントの振り返り・反省する	各自が体験した反省点を項目ごとに準備する



16	／	実習	外部ホール実習、インカムを使用した連携を学ぶ	機材リスト・タイムテーブルの読み込みを行う
17	／	講義・実習	デジタル機器への理解を深める①	デジタル機器マニュアルを熟読する
18	／	講義・実習	デジタル機器への理解を深める②	デジタル機器マニュアルを参照し操作を行う
19	／	試験	実技試験:ベーシックな照明機器の吊り込みとオペレートを行う	実際の機器を準備して予習する
20	／	講義・実習	ミュージカル実習に向けた役割分担を行う	本番で使用するホールの機構と必要とされる演出内容を基にメンバーを割り振る
21	／	実習	ミュージカル実習に向けた技術指導を行う①	本番で使用するホールの機構と必要とされる演出内容を基にセクション毎の必要スキルを考える
22	／	実習	ミュージカル実習に向けた技術指導を行う②	本番で使用するホールの機構と必要とされる演出内容を基にセクション毎の必要スキルを磨く
23	／	実習	ミュージカル実習に向けた技術指導を行う③	一般灯体担当、ムービング担当、ピン担当、など各チーム合同でシミュレーション作業を行う。
24	／	実習	外部ホール実習、ミュージカルバンドのオペレートを体験する	出演者の情報を事前に入手し、円滑な進行ができるよう準備する
25	／	講義・実習	シュート技術指導を行う①	ステージでの竿振り技術の練習を行う
26	／	講義・実習	シュート技術指導を行う②	サス、フロア、スモークを使用した練習を行う
27	／	講義・実習	図面を見て仕込み→シュート→バラシの総合実技を行う①	クラス内でチームを編成し、仕込み図を作成する
28	／	講義・実習	図面を見て仕込み→シュート→バラシの総合実技を行う②	制限時間内で規定の作業を行えるよう練習する
29	／	試験	実技・筆記試験:舞台テレビジョン照明オペレーター技能認定を想定したテストを行う	過去問題を参考に予習する
30	／	実習	外部ホール実習、卒業進級展ライブ実習を行う	出演者との綿密な情報交換と、各セクションとのミーティングを行い、クリアにする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	パフォーマンス実習Ⅱ (Performance WorkshopⅡ)	必修 選択	必修 選択	年次	2年	担当教員	黒瀬寛幸
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 月曜2・3限
教員の略歴	1999年からベースプレイヤーとして活動し、ティーナカリーナなどのサポートやセッション、ベースマガジンへの寄稿でも知られている。						
授業の学習内容	音楽界が必要としている生演奏のクオリティの向上と楽曲の研究 各科、アナライズの授業でより深く研究、フィードバック 名曲を知り、音楽に対する尊さと思慮深さを身につける 以上を踏まえ、三回で1クールとし楽器陣は二曲、ヴォーカルは1曲を課題曲とする。						
到達目標	バンド内での音楽的コミュニケーションを知り、全体で音楽を作れる習慣を身につける。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40% ※各クール 3回目をテストとし、ライブ形式での実演を評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Up Town Girl	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
2	／	実習	女性曲 Perfect	全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
3	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMCを含む進行案を考えてくる
4	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Virtual Insanity	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
5	／	実習	女性曲 We Are Never Ever Getting Back Together	全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
6	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMCを含む進行案を考えてくる
7	／	実習	下記楽曲を練習する 男性曲 Rossana	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
8	／	実習	女性曲 Break Out	全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
9	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMCを含む進行案を考えてくる
10	／	実習	下記楽曲を練習する Ain't No Mountain High Enough	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
11	／	実習	We Are The World	全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
12	／	実習	下記楽曲を練習する	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
13	／	実習	Music International Project(未定)	全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
14	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMCを含む進行案を考えてくる
15	／	試験	前期総合テスト	

16	／	実習	男性曲 Can't Fight This Feeling	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
17	／	実習	女性曲 Heart Breaker	全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
18	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMCを含む進行案を考えてくる
19	／	実習	下記楽曲を練習する	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
20	／	実習	Music International Project(未定)	全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
21	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMCを含む進行案を考えてくる
22	／	実習	下記楽曲を練習する	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
23	／	実習	男性曲 September 女性曲 How Do I Live	全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
24	／	実習	テスト、次回曲解説を行う	全パート合同で練習するMCを含む進行案を考えてくる
25	／	実習	下記楽曲を練習する WeareSSM 対策期間 全楽曲の復習・パフォーマンス練習	Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
26	／	実習		全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
27	／	実習		Vo別室・楽器合同でアナライズの授業にて予習する
28	／	実習		全パート合同で練習する変更点、アレンジ定着
29	／	実習		全パート合同で練習するMCを含む進行案を考えてくる
30	／	試験	卒業進級展ライブ	
準備学習 時間外学習			各曲の様々なバージョンをYoutube等での閲覧、取り入れ	
【使用教科書・教材・参考書】				
SCA製作譜面、メモ用五線譜、楽器、シールド、チューナー、エフェクター等				

科目名 (英)	パフォーマンス実習Ⅲ (Performance WorkshopⅢ)	必修 選択	必修 選択	年次	3年	担当教員	黒瀬寛幸
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間Ⅰ部)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 4	開講区分	年間 曜日・時限 水曜1・2限
教員の略歴	1999年からベースプレイヤーとして活動し、ティーナカーリーナなどのサポートやセッション、ベースマガジンへの寄稿でも知られている。						
授業の学習内容	ミュージシャンとして知っておきべき曲のアナライズと実演 難曲の攻略方法とタイムファーストの徹底 各曲レコーディングにて客観的に判断						
到達目標	リズムを頼れる理解力と演奏力の習得						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 授業内評価40% ※各クール 3回目をテストとし、レコーディング形式での実演を評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	Funk Fusionを学ぶ	タイトな16ビートを身に付ける
2	/	実習	Funk Fusionを学ぶ	グルーヴチェンジを練習する
3	/	実習	Funk Fusionを学ぶ	スラップ、ギターメロディの練習を練習する
4	/	試験	レコーディングを行う	機材と音色選定を行う
5	/	実習	Bossa Novaを学ぶ	アクセントの違いを意識する
6	/	実習	Bossa Novaを学ぶ	コード知識とボイスイングを学ぶ
7	/	実習	Bossa Novaを学ぶ	ピアノメロディを練習する
8	/	試験	レコーディングを行う	マイキングでの音の違いを学ぶ
9	/	実習	Sambaを学ぶ	Tuttiを練習する
10	/	実習	Sambaを学ぶ	アドリブを練習する
11	/	実習	Sambaを学ぶ	サンバキック、ピアノメロディ、全員アドリブができるよう練習する
12	/	試験	レコーディング	アドリブの客観性を意識する
13	/	実習	Fusion(Cross Over)を学ぶ	ペントニックを使って練習する
14	/	実習	Fusion(Cross Over)を学ぶ	コード進行の仕組みを理解する
15	/	実習	Fusion(Cross Over)を学ぶ	ギターインストを参考にする

16	／	試験	レコーディング	原曲に忠実な音色を目指す
17	／	実習	Jazzを学ぶ	Swingの基本と応用を身に付ける
18	／	実習	Jazzを学ぶ	各パートメロディが演奏できるよう練習する
19	／	実習	Jazzを学ぶ	アドリブ(オルタード併用)を練習する
20	／	試験	レコーディング	ジャズっぽさの想像を膨らませる
21	／	実習	Latin Jazzを学ぶ	モントウーノを練習する
22	／	実習	Latin Jazzを学ぶ	Tuttiを練習する
23	／	実習	Latin Jazzを学ぶ	パーカッションの重要性(全員がコンガ)を学ぶ
24	／	試験	レコーディング	難曲演奏のスタミナ消費ポイント
25	／	実習	Sight Reading & Arrangementを学ぶ	「ミュージシャン」としての最終訓練を行う
26	／	実習	Sight Reading & Arrangementを学ぶ	不足知識、テクニックを把握する
27	／	実習	Sight Reading & Arrangementを学ぶ	音色判断速度を磨く
28	／	試験	レコーディング	自分の音楽性を把握する
29	／	試験	レコーディング	自分の音楽性を把握する
30	／	実習	1年間の振り返り	自分の音楽性を把握する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	進級制作 (Advanced grade production)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	深井 誠
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	集中
教員の略歴	アーティストへの楽曲提供の他・CM・劇伴の楽曲アレンジを担当						
授業の学習内容	3年生のオリジナルアルバム制作のグループメンバーとして制作作業を共同で行う 作詞・作曲・レコーディング・ミキシング・マスタリングなど						
到達目標	3年目に行う各自の各品制作に向けて、プロセス、スケジュール管理、クオリティチェックなど与えられた期間内に $\times$ 切を意識した作業工程を身につける						
評価方法と基準	1. 授業内評価(%) :50% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	グループ編成・ミーティングを行う
2	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
3	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
4	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
5	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
6	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
7	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
8	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
9	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
10	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
11	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
12	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
13	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
14	/	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	プレゼンテーションリハーサルを行う
15	/	演習	卒業進級展で発表する	企業プレゼンテーション本番を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
必要に応じてプリント配布				

科目名 (英)	卒業制作 (Graduation production)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	深井 誠
学科・コース	音楽コミュニケーション科(3年制昼間I部)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	180 12	開講区分	集中
教員の略歴	アーティストへの楽曲提供の他・CM・劇伴の楽曲アレンジを担当						
授業の学習内容	2年間学んだスキルを活用して、業界にリクレーティングをする為のオリジナル作品を各自作成する 作詞・作曲・レコーディング・ミキシング・マスタリングなど						
到達目標	グループワークで1枚40分以上ある音楽アルバムを作成し、卒業進級展にて業界各企業にプレゼンテーションを行う						
評価方法と基準	1. 授業内評価(%) :50% 2. 筆記試験(%) : 0% 3. 課題(%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	グループ編成・ミーティングを行う
2	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
3	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
4	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
5	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
6	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	楽曲制作を行う
7	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
8	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
9	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
10	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	レコーディングを行う
11	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
12	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
13	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	ミキシング・マスタリングを行う
14	／	演習	アルバム制作プロジェクトを行う	プレゼンテーションリハーサルを行う
15	／	演習	卒業進級展で発表する	企業プレゼンテーション本番を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				